

昨年末、保護者の皆様には、学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。

皆様から寄せられた回答並びに同時期に行った生徒に対するアンケートの結果をもとに、分析を行いましたのでお伝えします。

(質問項目)

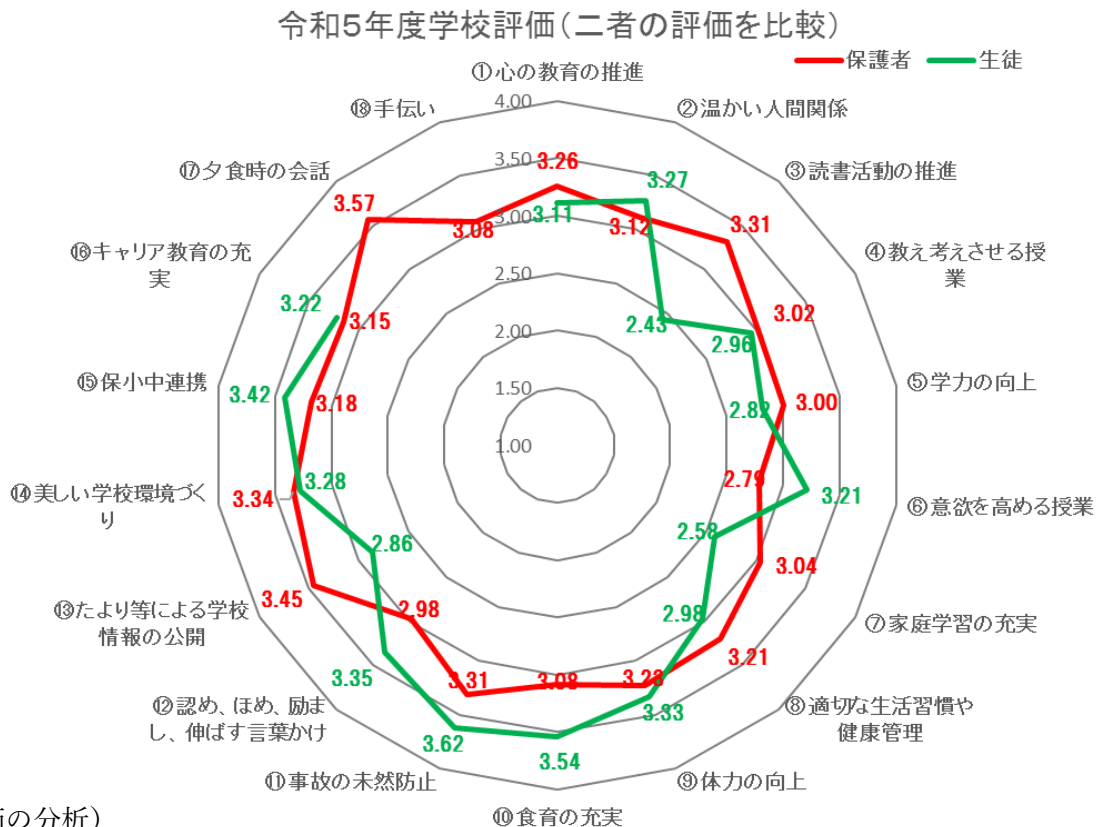
保護者向けと生徒向けのそれぞれ別添のような質問を行いました（学校評価アンケート保護者用、同生徒用参照）。のちに比較分析するために、各質問の表現については同等の内容について保護者の立場からと生徒自身の立場から評価できるように工夫してあります。なお、質問項目⑰⑱は家庭での様子ということで保護者のみに回答いただいています。

(評価の尺度)

思う＝4点、どちらかといえば思う＝3点、どちらかといえば思わない＝2点、思わない＝1点として点数化し、皆さん方の回答結果を平均した点数で表しています。（単純に平均すると $(4 + 3 + 2 + 1) \div 4 = 2.5$ ）となりますので基準が2.5点ということになります）

(評価の実際)

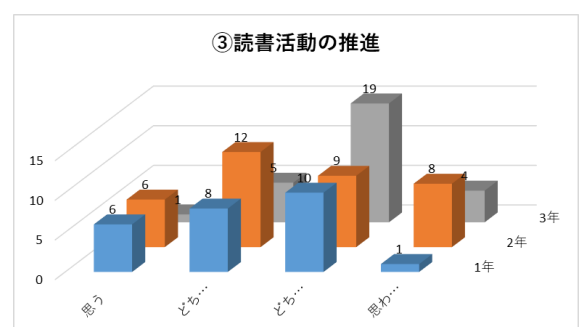
次の図は、各項目の平均点をグラフ化したものです。赤が保護者、緑が生徒になります。



(評価の分析)

概況を見ると、保護者も生徒も、おおむね3.0を越える数値を呈しています。特に保護者の評価は好評です。一方、生徒の評価においては③④⑤⑦の学習に関わる項目がやや低調であることがわかります。

保護者の評価は高いが、生徒の評価が低い項目として、③読書活動の充実、⑦家庭学習の充実の2項目が特に顕著です。③読書活動の充実については、今年度図書室の移転作業を行い、より充実した読書活動の推進を図っています。そのことは学校ホームページや各種たよりでも保護者にお伝えしているところです。そういった状況を受け止めていただき、保護者の評価は高いものであると推察します。一方生徒たちの評価はかなり低調です。平均点では状況がつか



めませんが、個人を見ると状況が浮き彫りになります。右上は、学年ごとの個人の回答を度数分布にまとめたものですが、学年ごとに見るとやはり受検を控えた3年生は低調であることがわかります。全学年に共通して言えるのが、積極的に図書館を利用している生徒とそうでない生徒との個人差が激しいということです。個人で相当数の本を読破している生徒は複数人います。貸し出し冊数の増加に大いに貢献しています。その一方で読書に対する興味関心が薄い生徒がいることも事実です。読書好きの生徒をさらに増やしていくための工夫をしてまいります。

⑦の家庭学習については1、2年生=90分、3年生=120分の時間の確保ができてきているかという問いであるため低調な結果が出た様子です。(右図参照) 今後、その量、質ともに改善の必要性を感じます。

一方、生徒の評価は高いが、保護者の評価は低くなっている項目として③意欲をもって授業に臨む(意欲を高める授業づくり)、⑫先生たちに見守られての充実した学校生活(認め褒め励ます言葉かけ)が上がります。

右のように、両項目とも生徒の評価(下段)は比較的良好です。一方保護者の評価(上段)にはばらつきが見られます。

両項目ともに、生徒にとっては情意面を問う項目であり、生徒個々の評価は保護者の皆さんからは目に見えにくいものであると思います。「思う」から「どちらかといえばそう思う」へとスライドしているのだと想像します。ただ、否定的にとらえておられる保護者が見られることは、私たちも真摯に受け止め、さらに生徒一人一人との関わりを深めていかねばならないととらえております。また、わからないとの回答もいただいておりますので、今後授業参観であるとか、生徒の学校での様子が伝わりやすいような、保護者の皆さんにとって開かれた学校づくりにもさらに工夫してまいります。

最後に、保護者の皆さんのみに回答いただいた⑰「家庭では夕食は、家族で会話するようにしている」⑱「家庭では、子どもにできる手伝いを積極的にさせるようにしている」に関しての結果ですが下に示す通り2項目とも良好な状況を示しています。子どもたちの健やかな成長のベースは家庭にあります。その意味からもこの結果は大変ありがたいことととらえています。上述した通り様々な成果とともに今後さらに改善のために取り組んでいかねばならない課題はあります。学校と家庭が手を携えて取り組んでまいりたいと考えます。今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

